

PLAY GROUnD ライブレポート

2025.1.15 MB3 期生

大阪音楽大学 ミュージックビジネス専攻（以下、MB 専攻） 3 期生は 2024 年 12 月 21 日（土）・22 日（日）に阿倍野 ROCKTOWN にてライブイベント「PLAY GROUnD - MINAMI WHEEL EDITION-」を開催しました。

MB 専攻ではライブイベント制作という授業の一環で、1 年生が企画・運営をし、ライブイベントを開催します。3 年目で 3 回目の実施となる今回のイベントは、「あなたと音楽の“遊び場”で最高の時間を創りだす」をコンセプトに、2 日間それぞれのテーマと想いを込めて開催されました。1 日目は様々な音楽が溢れる日常。さあ今日はこの場所で…「好きを見つけよう!!」2 日目は、一秒たりとも聴き逃せぬ音楽を「今、この瞬間をこのステージで」というサブタイトルを掲げ、プロのコンサートプロモーターやプレイガイド、メディアのサポートを受けて挑みました。



●DAY 1 12月21日(土) “好きを見つけよう”

“好きを見つけよう！！”では「Uncertain」、「近石涼」、「NIKO NIKO TAN TAN」の3組によるライブパフォーマンスを行っていただきました。



イベント開演前、各日メンバーでライブハウスに集合し、イベント運営を行いました。関係者の方々に挨拶をして、緊張と期待で心高鳴る中、私たちのイベントが始まりました。



会場内を一周し、それぞれの役割の動きを確認して、プロデューサーたちの指示のもとで各班準備作業に取り掛かります。



客席のセッティング、楽屋のセッティング、受付準備、MC練習、物販ブースやフラッグスペースなど当日に準備することは多数あり、普段触れることのない手順や工程の準備に慌ただしくしてしまった場面もありましたが、プロの方にサポートしていただきながら乗り越えました。



アーティスト到着前に楽屋班は楽屋のセッティングを行います。アーティストが心地よく過ごすことができ、より良いパフォーマンスができるように、お弁当やドリンク、学生からのメッセージなどを用意から携わりました。



アーティストの出迎え、機材運搬、転換を担当したのはバックステージ班です。イベントの進行によって次の動きや時間が左右されます。臨機応変さと判断力を駆使してイベントを支えました。



今回のイベントでは、「MINAMI WHEEL EDITION」として「MINAMI WHEEL 2024」に参加したお客さんに特典でステッカーをプレゼントしました。



そして、ライブに参加しているすべての人たちに「今の気持ち」を表現するという目的で、書き込みフラックも用意し、会場ロビーに設置していました。



準備を一通り終えたら合間の時間を使って、チラシの折り込みを行いました。



最後までライブを走り切るためには休憩も必要で、合間を見つけて昼食を取りました。最高のチームワークでスムーズに準備を進めることができ、休憩にも少し余裕を生むことができたように感じました。



受付からフロアまでのルートスタッフ全員で作成、いよいよライブが開演しました。



Uncurtain

トップバッターとして登場した、Uncurtain。力強いエネルギーを放つ音楽は始まりからお客さんの心を震わせ、大きなパワーを観客に与えてくれました。様々な感情が入り混じった心の痛みを報うような歌詞と、突出するようなメロディーラインと自然に身を任せてしまうようなリズムで、ライブハウスならではの音楽の響きを感じました。

近石涼

激しいサウンドの Uncurtain の次に登場したのは、優しく情熱的な音楽を響かせるソロシンガーの近石涼。ギターの弾き語りやピアノの弾き語りでステージを彩りました。スポットライトに当てられ、温かい雰囲気醸し出しながら奏でられる歌声と、優しく爽やかでありながらも、強い想いが込められた歌詞が観客の心に染み込んでいきました。

NIKO NIKO TAN TAN

3組目はステージ全体で表現する大迫力の演奏とパフォーマンスだった NIKO NIKO TAN TAN。エキゾチックな轟音を響かせ、個性豊かな演出は観客の心を惹き込んでいきました。極彩色の芸術を目の当たりにしたような衝撃を放ち、1日目最後のステージで観客もアーティスト自身も全力で遊んだ！と言えるようなひと時となりました。

●DAY 2 12月22日(日) “今、この瞬間をこのステージで”

“今、この瞬間をこのステージで” では「Mercy Woodpecker」、「Hello Hello」、「Bey-Bey-Hand の方程式」の3組によるライブパフォーマンスを行っていただきました。



1 日目が無事に終わり、

SNS 班は、イベント開催中も SNS の運営を行っていました。プロのカメラマンが撮影した写真を、SNS で利用していいかアーティストに許可取りをします。写真の受け取り、許可取り、投稿という工程が多い作業でしたが、連携をとってスムーズかつ慎重に行うことができました。



ジングルや MC 台本なども自分たちで作成しています。本番が近づくとつれ、緊張が高まっていく中でも、最高のライブの幕開けを作り出すことができました。



Mercy Woodpecker

2日目トップバッターは Mercy Woodpecker。「PLAY GROUnD で遊ぼうぜ」そんな掛け声で幕を開け、観客に心おどる空間を届けました。優しい歌声とポップな音楽で会場を包み込み、縦乗りのリズムで観客とアーティストが音楽を通して一体となれたそんな空間を創り出してくれました。

Hello Hello

“ひとり一人に寄り添う音楽を”を掲げる Hello Hello の音楽は、観客に語りかけるよ

うな優しさと暖かさを放つような音楽でライブハウスを包みこんでくれました。ポップでロックな要素も混じる Hello Hello の音楽は楽曲の独特な世界観が印象深く、ステージの演出とマッチした演奏はとても美しいものでした。

Bye-Bye-Hand の方程式

ロックでユニークで暖かいそんな音楽とパフォーマンスを魅せてくれた Bye-Bye-Hand の方程式。エネルギーのある音楽で、イベント最後のステージを遊び尽くしてくださいました。MC で語られた私たち MB 専攻生へメッセージ「今日、この日のライブを未来の約束だ」という言葉は私たちの心に響き、頑張ってきてよかったと心から思えた瞬間でした。



ライブイベントを企画・運営し、厳しさや困難を数多く経験しました。それでも、音楽が好きで、音楽とともに生きていきたいとこのイベントを通して実感しました。今回の経験を活かし、私たちはこれからも MB 専攻で様々な学びを得て、さらなるイベントや

音楽ビジネスを創り出していきたいと思います。

執筆者：MB3期 浅野詩奈